



国際交流を通じた防災協働学習

iEARN NDYS (Natural Disaster Youth Summit) Project

防災世界子ども会議実行委員会 岡本 和子 納谷 淑恵 福田 宏子

1 プロジェクトの概要

NDYS(防災世界子ども会議)は、世界の子ども・教師が参加する防災協働学習の世界大会です。阪神・淡路大震災から10年を迎えた秋、ひょうごで生まれ育った子どもたちがICT(情報コミュニケーション技術)を活用し、自分たちの震災経験やそこから得た教訓を世界の子どもたちに伝えよう、未来に活かそうと、2005年3月開催の「防災世界子ども会議2005 in ひょうご」に向けて防災協働学習をスタートさせました。これが活動の発端となり2006台湾、2007愛知県、2008トリニダード・トバゴ、2009台湾と世界を回り、会議を開催。

1年毎のテーマにそって、インターネットテレビ会議システム、NDYS独自の国際協働学習の開発システムやアイアーンフォーラムなどのICTをフル活用し、言語の壁を越えてコミュニケーションを図り、さまざまな国・地域の防災の「知恵」や災害から学んだ「教訓」を共有し、災害リスクを軽減する学びに取り組みます。災害の多発するこの21世紀、多様な価値観をもつ人々と協力して、『気候変動と防災』という地球規模の課題に協働で取り組み、その成果を未来へ発信するiEARN(アイアーン International Education and Resource Network)プロジェクト。これまでに、47カ国・地域、延べ約15,000人の子どもたち、教師が参加しています。

図1 国際協働学習の開発システム(Cosmos)



世界の子どもたちが協働でとりくんでいる災害安全マップを見てみよう！

2 NDYS2010の実践

- テーマ 気候変動と防災
- 期間 2009年9月～2010年8月
- 参加国・地域 学校
19カ国小・中・高校40校の参加
- 言語 英語・日本語(各国・地域の母語)

アゼルバイジャン共和国、イラン・イスラム共和国、インド共和国、インドネシア共和国、ウクライナ、エジプト・アラブ共和国、ギニア共和国、グルジア、スリランカ共和国、台湾、トーゴ共和国、トリニダード・トバゴ共和国、トルコ共和国、日本、パキスタン・イスラム共和国、マケドニア共和国、ルーマニア、ヨルダン・ハシェミット共和国、ロシア連邦

写真1・2 NDYS2010の世界大会



オープニング：「第6回防災世界子ども会議 in トルコ」は、2010年8月23日から29日の7日間、トルコのブルサ市ホール他で開催

3 ねらい

NDYSのミッションは、国境を越えた防災協働学習を通して、国際的な視野での防災意識を共有しながら、地球時代のそれぞれの地域の減災社会づくりに連携して取り組むこと。そして持続可能な開発を可能にする社会づくりに協力・協働で取り組むことです。さらに、これからの世界の防災・減災を担う道へと羽ばたいてゆく人材の育成を目指しています。

4 実践の内容

○世界の学校

自然災害に国境はなし。地球時代の防災という課題解決には、まず、世界のさまざまな災害の現状を知ること。さらに、そこに住む人々の防



宣言発表する日本代表の高校生：
防災学習の成果をワークショップやプレゼンテーションで互いに共有し、宣言文を採択。そしてそれぞれの国の言葉で宣言文を発表

災の知恵を活かすことです。NDYS では、2006 から、防災の縮図、地域の「災害安全マップ」づくりを通じた防災協働学習を推進する国際協働プロジェクトとして活動しています。世界大会で子どもたちは一同に会し、この安全マップの成果をもちより、語り合い、学びあい、異文化交流の機会に友情の輪を広げながら、子どもたちの絆を深めています。

NDYS2010 の URL: <http://ndys.jearn.jp/ja/ndys2010.html>

○日本チームの実践

2009年9月

2010年1月は、大震災15年。神戸チームは震災時に生まれた地元高校3校(神戸市立葺合高校、兵庫県立舞子高等学校、兵庫県立川西高等学校宝塚良元校)が協働で、「気候変動と、私たちの住む街の防災・減災」をテーマに「KOBE 高校生防災協働学習プロジェクト」をスタートさせました。そのキックオフとし本プロジェクトの企画意図を高校生に伝え、自主的な防災学習を行うために必要なノウハウを共有することを目的としたワークショップを実施。

2009年10月—12月

学習の進め方にそって高校生は4グループに分かれて安全マップづくりにとり組み、11月には中間発表会で実践経過発表。次に、高校生の活動を支援する大学生ファシリテーターとのマッチング等も行い、高校生の活動を促進する基盤をつくりました。

自己紹介からはじまり、海外の学校と安全マップづくりの経過をフォーラムで紹介しあい、月1回、海外の学校とテレビ会議を実施。ICTを活用した英語でのコミュニケーションを体験して、多くの人にわかりやすく効果的に伝える方法を少しずつ学びました。

2010年1月

阪神・淡路大震災15周年記念助成事業『NDYS2010 神戸フォーラム』を開催。

世界の子どもたちとインターネット・テレビ会議でつながり、コミュニケーションをとりながら進めるネットワーク型フォーラムを開催。それぞれの視点で安全マップづくりにとりくんだ成果を発表。会場からも海外からも感想や質問が相次ぎました。今回は神戸発の防災学習ノウハウの集積と文化への醸成を目指すことでモチベーションを高め、問題意識をもってプレゼンテーションづくり・発表にのぞむことができました。このフォーラムに参加した高校生の中から6名を世界大会へ派遣しました。

5 成果と課題

子どもたちはNDYSを通して、ローカル、グローバルな協働学習に参加することで、自然の脅威、命の尊さ、共に生きることの大切さを学ぶきっかけをつくることができ、プロジェクト学習が有効であることがわかりました。

グローバルなコミュニケーション活動に、ICTが大きな役割を果たし、協働学習が若い人たちの問題意識とリーダーシップを引き出すことを可能にしていることがわかりました。これまでの活動を通して、若い世代の防災教育のリーダーが育ってきています。また『コミュニケーションが命を救う!』というNDYSの精神が浸透しつつあります。

写真3・4 NDYS2010 神戸フォーラム



「地域災害安全マップと防災ゲーム」のプレゼンテーションで、防災専門家のコメントをいただく神戸市立葺合高校生神戸の人と防災未来センターにて



会場と世界の学校をテレビ会議で結び、フォーラム会場の様子をライブ配信。トルコのニメット校長先生が笑顔で、8月開催の世界大会への参加を呼びかけました

写真5 平成22年度国際教育ジェイアーンの会(5月)



8月 トルコで会いましょう!

日本からトルコ会議に参加する防災子ども大使の紹介と海外のメンバーとの交流を中心としたテレビ会議を実施